

1 平均正答率（県の平均正答率と比較して）について

【小学校】 国語は同じ結果でした。算数は▼1.0%下回りました。

【中学校】 国語は▼2.0%、数学は▼1.0%下回りました。英語の平均 IRT スコアは 477（全国平均 499）でした。

2 教科別について ○成果 ▼課題

【小学校】

（国語）○ 「言語の特徴や使い方に関する事項」 表現の工夫に気付くことができるかどうかをみる問題（選択式）

▼ 「書くこと」 引用して、書き表し方を工夫できるかどうかをみる問題（記述式）

→ どこまでが他人の意見で、どこからが自分の主張かが分かるよう「引用や出典の示し方」を明確に区別させる学習活動が必要であると考えています。

（算数）○ 「データの活用」 根拠を説明できるかどうかをみる問題（記述式）

▼ 「図形」領域の「知識・技能」 体積の意味について理解しているかどうかをみる問題（短答式）

→ 3D モデルを活用し、立体をスライスしたりブロックに分解したりして視覚的アプローチをする活動を通して、立体の構造や単位体積を体感的に捉えさせることが必要であると考えています。

【中学校】

（国語）○ 「言語の特徴や使い方に関する事項」 単語の識別について理解度を測る問題（選択式）

▼ 「書くこと」 表現の工夫について、良い点と改善点を見いだすことができるかどうかの問題（記述式）

→ 生徒同士で文章を読み合い、「よい点（まねしたい表現）」と「改善点（より伝わるための提案）」をセットでコメントし合う活動が必要であると考えています。

（数学）○ 「データの活用」 箱ひげ図と四分位数の対応について理解度を測る問題（選択式）

▼ 「図形」 筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる問題（記述式）

→ 「穴埋め形式」⇒「根拠となる性質の選定」⇒段階を踏んだ後、根拠を順序立てて積み上げ、証明する力を育てる学習活動が必要であると考えています。

（英語）○ 必要な情報を聞き取ることができるかどうかの問題（選択式）

▼ 「書くこと」 表現、文法、言語の働きなどの知識を、書く場面で活用できる技能を身に付けているかどうかをみる問題（短答式）

→ ペアワークで話した表現を、そのまま 1～2 文で書き留めさせ、知識と書く動作を直結させる活動が必要であると考えています。

3 児童・生徒質問調査について ○成果 ▼課題

○ 「学校に行くのは楽しい」と答えた割合が、小中学校ともに全国・県平均を上回っています。

→ 魅力的な学校づくりができ、教職員や友達と良好な人間関係を築くことができていると考えられています。

○ 「地域や社会をよくするために何かをしたい」と答えた割合が、小中学校ともに全国・県平均を上回っています。

→ 今治市の「ふるさとキャリア教育」を通して、地域の歴史や産業、その魅力や課題について探究・調査する学習の成果が、児童・生徒の意識に表れていると考えられます。

▼ 「学校の勉強のことにについて、親と家族とよく話をする」と答えた割合が、全国・県の平均より低くなっています。

→ 学級通信や日記等で保護者のコメントやチェック欄を活用しながら連携を図ります。

▼ 「平日、休日に授業以外に 1 時間以上勉強する」と答えた割合が、全国・県平均を下回っています。

→ 「個人のやる気」に頼るのではなく、SNS やゲームとの適切な関わり方を指導しつつ、スモールステップでの目標設定と記録を通して、仕組みと環境の整備による持続的な家庭学習の習慣化を図っていきたいと考えています。

今後も、これまでの取組を通して育まれた郷土への誇りや自己効力感を生かし、児童生徒が自らの目標に向かって主体的に学び続ける姿勢を育てていきたいと考えています。